

■ 最上川中流地区 土地改良施設突発事故復旧・防止事業（直轄）の実施について（大曾根揚水機場）

令和7年4月14日に発生した大曾根揚水機場（昭和57～61年度に造成）の漏水事故の概要と仮復旧～本復旧までの計画内容及び工事実施状況を報告します。

【漏水事故の概要】

本機場は、ポンプ3台（1～3号、各φ350mm）により大曾根吐水槽に揚水（全揚程50m）し、山形市・山辺町の水田約252haに用水供給するものですが、令和7年4月14日に3号ポンプの配管（鋼管φ350）接続部フランジが、ボルト類の腐食・損失により離脱し、機場内が96cm浸水する事故が発生しました。

これに伴い電気盤類が停止し、全てのポンプの運転が不能となり、代かきを3週間後に控える中、受益地への用水供給ができない状況に陥りました。



【復旧事業計画及び仮復旧～本復旧工事の実施状況】

事故後直ちに関係機関が結集し、現地で原因究明及び各種対応策を検討し、本復旧までには約8ヶ月を要することから、営農への影響を最小限に抑えるべく、3段階の対策・復旧を進めることで、危機的な状況を乗り越えることが出来ました。

【STEP1】 暫定用水供給工事：間近に迫る代かき用水確保のため、吸水槽に高揚程仮設水中ポンプ4台（各φ200mm）を設置し、発電機で吐水槽へ揚水し用水供給（番水・節水と併せ対応）。
 【STEP2】 緊急応急工事：電気盤及び1・2号ポンプを仮復旧し、7月に同ポンプの運転に切替えるとともに、
 【STEP3】 本復旧工事：工場での製作・整備を並行して進め、落水期に機場全体の復旧工事を全て完了。



復旧工事スケジュール

項目	令和7年度							備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	12月	
かんがい期間	▼漏水事故発生							かんがい期：4/10～9/10
【STEP1】	暫定用水供給工事							高揚程仮設水中ポンプ設置～運転
【STEP2】	緊急応急工事(直轄)							高揚程仮設水中ポンプ運転～撤去 電気盤類仮復旧、フランジ管等交換
【STEP3】	本復旧工(直轄)							3号ポンプ、電気盤類本復旧 機場全体本復旧

【STEP1】 暫定用水供給工事

【STEP2～3】 仮復旧～本復旧工事



■ 今夏の少雨・高温に伴う渇水への対応について

令和7年7月は、記録的な猛暑と少雨が続いたことにより、日本各地で深刻な水不足に見舞われました。特に出穂期を迎える水稻作への影響は大きく、一部地域では用水不足や高温による生育不良が発生する事態となりました。

【東北農政局の取組】

東北農政局は、8月以降もまとまった降雨や気温の低下が見込まれず、水稻の生育等が懸念される状況を踏まえ、7月31日に「令和7年東北農政局渇水対策連絡会議」を設置しました。これにより、関係機関との連絡調整が強化され、各地で発生している渇水被害に対し、補助事業制度に係る情報提供や応急ポンプの貸出を行うなど、かんがい用水を確保するための支援が迅速に行われました。

【当事務所管内の状況について】

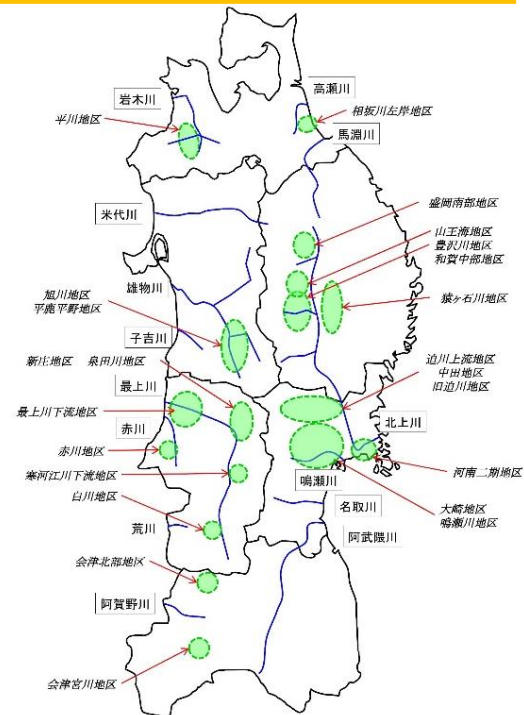
当事務所管内（秋田県、山形県）においても、雄物川水系や最上川水系などに位置する国営地区で用水不足が懸念され、番水や反復ポンプの活用などにより渇水対策が行われました。一部の地区では、用水が届きにくい受益地の末端のほ場で地割れや穂の生育不良が見られました。

当事務所では、関係土地改良区から収集した渇水情報を「東北農政局渇水対策連絡会議」や国土交通省関係河川事務所が主催する「渇水情報連絡会議」において関係機関に情報提供するとともに、同会議で共有された最新のダム貯水状況や気象予測を注視しながら、今後の渇水対応方針について検討を行いました。

【渇水対応に係る事例紹介：平鹿平野地区】

本地区の水源である「皆瀬ダム」は、記録的な少雨の影響によりダムへの流入量が見込めず、水稻出穂期前の貯水位が最低水位を下回り緊急的にダム底水を利用しました。また、皆瀬頭首工の取水量が計画取水量の2割以下まで減少したため、用水の不足するエリアへの分水調整等による節水のほか、ため池の利用や地下水ポンプの活用に加えて、冬期に使用する流雪溝揚水機もフル活用し、大変厳しい渇水を乗り越えました。

渇水対策を実施した国営地区



国営地区、全52地区中
渇水対策実施地区は23地区
うち西奥羽管内は8地区

雄物川水系渇水情報連絡会
(臨時会)

雄物川水系の渇水状況を見ながら随時、関係機関との情報共有を図り、渇水対応タイムラインに沿った取組を検討

開催日：7月18日、7月25日、7月31日、8月8日



皆瀬ダム渇水状況 (R7.7.30)



地下水ポンプ稼働状況



リースポンプ等の活用



流雪溝揚水機の活用

【トピックス】

■ 東北農政局 公式Instagramによる情報発信について

東北農政局は、InstagramとX（旧Twitter）を活用して、さまざまな情報発信を行っています。

東北農政局 公式 X（旧Twitter） https://x.com/MAFF_TOHOKU

概要：東北農政局のプレスリリース情報や、各種施策情報など、東北農政局の動きをさまざまな角度からお届けします。

東北農政局 公式 Instagram https://www.instagram.com/maff_tohoku/

概要：農林漁業者、食品事業者等にとって役立つ情報のほか、東北の旬の農林水産物、農林水産業・食品産業に関するイベント情報等東北の魅力を発信しています。

西奥羽投稿紹介



R6.11.20 投稿（トンネル調査）



R6.11.20 投稿（赤ねぎ）



R6.12.25 投稿（白神ねぎ）



R7.9.18 投稿（刈谷梨）



R7.7.22 投稿（植栽イベント）

ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。



東北農政局 公式SNS



@MAFF_TOHOKU



@maff.tohoku

※右下のQRコードからフォローし、『いいね』の送信をお待ちしています。